



新たな誇り 「アリーナ」でその雄姿を

らいました。子ども時代から相撲も練習してきましたので、相撲で学んだことがレスリングに生かされているというか、僕にとってはレスリングと相撲が一体化しています。

知事 一体化といえば、「うどんレスラー」と異名を取る日下さん、讃岐うどんと日下さんも切っても切れないですね。

日下 そうなんです。実はパリオリンピックでも、うどんをすすって試合に臨みました。ふるさとの味でもう一つ欠かせないのは骨付鳥です。それから、帰ってきて行く場所といえば、映画のロケ地にもなった庵治^{あじ}。屋島や五色台の

あきらめなければ 不可能はない

知事 2024年のパリオリンピックのレスリング男子グレコローマンスタイル77^{きゅう}級で金メダルを獲得した日下尚選手。讃岐の大地で心身共にたくましく育ち、見事金メダリストとなりました。香川県出身選手では、個人種目で金メダルを手にしたのは日下選手が初となります。その栄誉をたたえ、香川県からは「県民栄誉賞」を贈らせていただきました。

日下 「県民栄誉賞」は、新たに創設された賞で僕が初めていただいたとのこと、感激しました。実はオリンピックでは終始興奮状態でした。もちろん緊張はしていましたが、試合会場



香川県知事

池田 豊人

知事 これまで何度かターニングポイントがあったのでしょうか。

日下 僕の場合は高校1年生の時にリオオリンピックを見て、どうしてもオリンピックに行きたいと本気になりました。ところが、高校2年生の国体は1回戦で敗退。この時、てんぐになりかけていたんです。それから

夜景も好きですね。海と街の風景は、海外でもめったに見られない美しさだと思います。それにより香川は、人が温かい。

知事 私も長い間香川を離れていましたが、帰ってくると人の温かさが身に染みますね。人が優しく笑顔が多い印象の香川県ですが、日下さんが子どもたちと接している時の笑顔も最高ですね。

日下 僕は小さい頃から優勝経験があつたわけではありません。ですから、誰でも金メダリストになれる、不可能はないと子どもたちに伝えたいんです。レスリングを辞めようと思ったこともありましたが、努力は必ず報われるから、あきらめずに頑張ってほしいと伝え続けたいと思っています。僕が続けてこられたのは、どこかにオリンピックへの憧れがあつたからだと思います。子どもたちにも、カッコいいと憧れるシンプルな気持ちを大事にしてほしいと思います。

ふるさととの誇りは、 海と街、人の心の美しさ

知事対談 日下 尚 × 池田 豊人
KUSAKA NAO
IKEDA TOYOHITO

に入ると歓声に包まれて、その声で緊張が解けました。香川県に帰ってきての凱旋パレードの歓声もうれしかったですね。生涯の思い出に残る経験をさせてもらいました。

知事 日下さんには、多くの人が勇氣や元氣をもらいました。そういえば、お名前にはオリンピックにまつわるエピソードがあるとか。

日下 僕が生まれたのが2000年。シドニーオリンピックが開催された年でした。女子マラソンでは高橋尚子さんが金メダリストとなり、それを見た両親が「尚」と名付けたと聞いてい

パリオリンピック2024 レスリング男子グレコローマンスタイル77^{きゅう}級 金メダリスト 日下 尚

高松市出身。3歳からレスリングを始める。中学まではレスリング以外に相撲にも取り組み、全国大会にも出場。高校3年生の時にレスリングの全国高校生グレコローマン選手権71^{きゅう}級で優勝。2023年の世界選手権で3位になり、オリンピック初出場を果たすと、中学時代の相撲で培った、前に出るレスリングで金メダルを獲得。



凱旋パレードの様子

ます。両親もスポーツをしていて、子どもにも何かスポーツをと思ったんだと思います。

知事 日下さんは、相撲の経験もあり、香川県出身の荒磯親方（元関脇琴勇輝さん）ともお付き合ひがあると伺いました。

日下 荒磯親方の佐渡ヶ嶽部屋には練習にお邪魔しています。オリンピック前にも行かせても



は、どんなに自信があつても、練習を怠らず努力を続けるようになりました。ですから、オリンピックが終わっても練習は変わりなく続いています。

知事 この春には、香川県に中四国一の規模を誇るアリーナがオープンします。日下さんにも、このアリーナで力を振るってほしいです。

日下 つかいアリーナで驚きました。いつの日か引退試合を、あそこでやりたいですね（笑）。

知事 そんなに先じゃなくて、子どもたちのためにも日下さんが試合をする姿をアリーナで見せてください。今後ともアリーナや香川県のスポーツ振興のためにお力をお貸しください。本日はありがとうございます。